

心豊かでたくましく共に生きる子ども



ひらかた

6月号

令和8年5月29日

上尾市立平方小学校

校長 大野 和孝



ホームページ

上尾市 平方小学校

検索

QRコード

過程という景色を味わいながら

校長 大野 和孝

この時期の雨は、木々の緑をいっそう鮮やかに映し出します。紫陽花がしっとり濡れ、校庭の草花も恵みの雨を受けて力強く根を張っています。子供たちはひらまるンピック2026(運動会)に向け、一生懸命取り組んでいます。

さて、この間私は、中山道の宿場町として知られる岐阜県の「馬籠宿」から「妻籠宿」へと続く峠道を歩く外国の方がインタビューを受けている映像を目にしました。石畳の道が続くこのルートは、今や「サムライロード」として世界中から多くの観光客が訪れる人気のハイキングコースとなっています。大きなバックパックを背負い、一步一步を確かめるように歩いているある外国の方がインタビューされていました。その方は、柔らかな笑みを浮かべてこう仰っていました。「多くの日本人は、目的地(妻籠)に早く着くことばかりを気にして、足早に通り過ぎてしまうようですね。でも、私はこの歩いている『過程』そのものを楽しんでいるのです。鳥の声、風の匂い、道端の小さな石仏……ここにあるすべてが私にとっての旅なのです。」その言葉は、教育の場に身を置く私にとって、ハッとさせられるような深い響きを持っていました。私たちは、ともすれば「早く目標を達成すること」や「よい結果を出すこと」ばかりに目がいき、その道中にある大切な宝物を見落としてしまっていないでしょうか。

学校生活において、子供たちの「目的地」とは何でしょう。テストで満点を取ること、ひらまるンピック2026のブロック種目競技で勝つこと、クロールで25mを泳ぎ切ること。これらは確かに立派な目標であり、子供たちの意欲を引き出す大きな原動力になります。目的地を定めて努力することは、人生において大切な経験です。しかし、教育という長い道のりにおいて、本当にその子の血肉となり、心を豊かにするのは、実はその目的地にたどり着くまでの、「歩き方」にあるのだと私は考えます。計算ドリルで間違えた問題を、なぜその答えになるのかと悩み、試行錯誤する時間の豊かさ。一等を取ることよりも、バトンを繋ぐために仲間と声を掛け合い、校庭で流した汗の重み。それこそが、インタビューに答えた方が言っていた「歩いている過程そのもの」だと思います。子供たちにとって「目的地」は、成長するための手段であって、過程そのものが目的であるとさえ思えてきます。

時代の流れとして、効率性やタイムパフォーマンスが重視されることがあります。最短距離で正解に辿り着くことのみが評価される風潮もある気がします。道端に咲く名もなき花に足を止め、空の色に心を動かし、時には道に迷って遠回りをする。遠回りしたからこそ味わえた経験や「心の寄り道」も、予測困難なこれからの社会を生き抜くための「感性」や「しなやかさ」を育むために必要な機会ではないでしょうか。

6月は一学期の振り返り地点です。4月に立てた目標に向かって、子供たちは地道に取り組んできました。ご家庭でも、ぜひお子さんの「結果」だけでなく、その「プロセス」に目を向けてあげてください。大人が「歩み」を見届け、認め、共に味わうことで、子供たちは「自分は正しく歩んでいる。」「結果はともあれ、少しずつ成長している。」という自信と、今を充実させられている実感をもつことができると考えています。私たち教職員一同、子供たちが足元の小さな幸せや大切な学びに気づかずに通り過ぎてしまうことがないように、一人ひとりの歩幅に寄り添い、その「過程」を共に歩んでいきます。